



# 平成30年度日臨技九州支部 医学検査学会の開催にあたって

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
代表理事 会長 宮島 喜文

本学会が、公益社団法人大分県臨床検査技師会の佐藤 元恭会長の下で、メインテーマ「協 ～多職種との連携と他職種との協働～」として盛会に開催されますことを会員の皆様とともにお慶び申し上げます。

また、平素より一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（以下、日臨技と略す）の活動に、ご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、日臨技の活動につきましては、「日臨技を新生させ、未来を拓く」を目標に掲げ、様々な事業に取り組んで参りました。今年5月には静岡県浜松市で第67回日本医学検査学会を山口浩司学会長の下開催し、4,300人程の参加者をいただき成功裏に終了することができました。改めて、開催県はもとより、会員を始め、関係各位のご協りに感謝申し上げます。

日臨技主催支部学会は、学術活動の一環として、会員の資質向上を図ることを目的として、担当県の実行委員会が特色ある企画と運営で多くの会員の皆様が期待されているところです。また、数年前から日臨技の当面の課題をテーマとする日臨技企画などを通じて、私たちを取り巻く最新の医療情勢を踏まえた討議の場として重要な役割を果たしているものでもあります。

急速に進む技術革新は近い将来、臨床検査の分野でも大きく変貌する要素を含んでいます。例えば、インターネットや人工知能、そしてロボット開発について国を挙げて取り組んでいます。臨床検査へのAI（人工知能）の活用により、精度管理の判断や生理検査の判読などがAIやロボットに置き換わるのではと考えていますが、臨床検査技師の仕事として、検査説明・相談、採血、総合判断等が残ると思いますが、今後はオペレーターからコーディネーターへの転換も必要ではないかと思えます。

今後も国民皆保険制度を基本とした、持続可能な社会保障制度を維持するために、国は医療法規定の医療計画で都道府県毎に「地域医療構想」を策定し、2025年問題に対処するために、「病院完結型医療」から「地域完結型医療」へと介護を含めた政策の転換が図られます。今日、私たち医療現場においても、「時代は変わり、仕事も変わり、私たちも変わらなければいけない」状況にあるのではないのでしょうか。

臨床検査を通じて国民に対し、最良の医療を提供していくために、昨年6月医療法等の一部を改正する法律が成立し、医療法に「精度管理」の文言が初めて明記されました。今年7月「医療法施行規則」並びに「臨床検査等に関する法律施行規則」が公布され、臨床検査技師も精度管理責任者として明記され、今年12月に改正法が全面的に適用されることから、医療機関並びに衛生検査所等会員においては、施行に向けた準備が佳境に入っていることと存じます。

本学会のメインテーマである「協 ～多職種との連携と他職種との協働～」をテーマに進むべき方向性について考えていただくことは非常に有意義であり、あわせて学術活動の更なる発展と日頃の研究成果を発表する場として参加される会員にとって実り多き学会であることを祈念申し上げます。

最後になりましたが、本学会を運営するにあたりご尽力をいただきました野中 恵美学会長、正田 直実行委員長をはじめ、大分県臨床検査技師会の皆様にご心より感謝申し上げます。

平成30年10月6日